

# 危機は継続中 この10年を振り返る

## ■政権交代の意味

小泉政権以来、アメリカの悪いところ（弱者切り捨てる戦争国家）ばかり真似て、弱い立場を理解できない二世ボンボン総理が続く中、このままではいけない！という国民の思いが政権交代を実現させました。

しかし多くの民主党議員は国民の思い（民主党中枢の志）を理解できず、特に地方議員は利権の窓口が自公から民主に移るだけと考えました。無駄と利権の象徴だった公共工事八ッ場ダムは止められませんでした。

マニフェストに八ッ場ダム廃止を明記しておきながら、官僚と地方議員に押し切られました。菅総理が、せっかく（これも公約通り）諫早湾干拓開門を確定させたのに、これも同じ構図となりました。

目先利権温存のために操れる野田総理を擁立するために、国策捜査まで動員して小沢氏を失脚させて民主政権は瓦解しました。

最初に強引にでも八ッ場ダムを廃止しておけば……小沢さんを総理に据えておけば……と、2回のチャンスを潰してしまいました。

## ■福島原発事故の意味

菅さんが事故の時の総理だったのは不幸中の幸いでした。原発安全神話をうのみのして東電と一緒に利権を守る他の指導者ならもっと重大事故になっていたでしょう。

そして今も危機は継続中。安全性の確保もできず、核廃棄物の処理法が見つからないまま、再稼働を進めるなどもってのほかです。

早々と（収束していないのに）終息宣言を出した野田総理、オリンピック欲しさに福島はコントロール下にあると嘘をついた安倍総理。危機意識の無い宰相が続いています。

## ■安倍政権の暴走

民主政権の失敗が後押しして、中国や北朝鮮の脅威をあおり軍事進攻もいとわない安倍政権の勇ましさが一部の人たちに評価される

おかしな時代になっています。

国内の失政から目をそらせるために外国の脅威をあおり、戦争を仕掛けるのは歴史が繰り返してきた常套手段です。

財源の当てもなくお金をばらまくしか能のない安倍総理の財政策（アベノミクス）はずでに破たんしています。

困った人たちの最後のセーフティーネットである生活保護制度も、国民皆保険の医療制度も、改憲論議はしながらも守ってきた平和憲法が、世界の信頼を得て最大の防衛力になっていたことは自民党も一緒になって築いてきた日本の政治ではなかったのでしょうか。

## ■無法国家の様相

安倍政権がこれまでの自民（自公）政権とは一線を画す異質なものであることに気づかなければなりません。

構成メンバーの大部分が今までと変わらないので気付きにくいですが、この数年でルール無き無法組織に変わりつつあります。

多数決も一つのルールですから、多数決に持ち込めば勝てるわけですが、勝ると多寡をくくって、ルール通りの手続きをしないわけです。

今回の憲法をめぐる一連の動き、安保法案の手続きなど、暴走が続いています。スピード違反をした後で、制限速度を変更決定して違反をもみ消すようなやり方です。

今回の青草子のテーマでもあるのですが、実はこの危険な兆候が島原市にも存在します。

## ■それ以前の問題

原発再稼働・TPP・九州新幹線長崎ルート・憲法改定（9条改定）・石木ダム・諫早湾干拓どれも重要案件ですが、民主的なルールに従って可否を判断しなければなりません。そのルールが無視されるのですからまさにそれ以前の問題です。

自公支持だった方、今度ばかりは危険です。